

政策番号	15	政策分野	地域福祉
------	----	------	------

基本方針	住民が主体的に地域福祉活動に取り組むことを通して、住民自治の機能をさらに高めるとともに、公的な福祉制度・施策を提供する行政や公共的団体が密接に連携しともに実践する協働の取組の展開を図ることにより、地域のなかでひとりひとりが自己決定に基づいて自立した生活を実現する。これらの取組を原動力として「地域の福祉力」をつむぎ、すべての住民の基本的人権が尊重され、だれもがくらしやすい地域の実現をめざす。	
------	---	--

担当局	保健福祉局	共管局	
-----	-------	-----	--

政策に関する 主な分野別計画等	京（みやこ）・地域福祉推進指針
--------------------	-----------------

政策の評価

1 客觀指標評価

政策の客観指標評価		平成23 評価値	令和2 目標値	平成 30	令和 元	令和2年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	民生委員活動数(件)	225,478	—	e	e	258,441	249,824	265,575	94.1%	e
2	老人福祉員訪問者数(人)	30,042	—	a	b	34,606	32,997	34,780	94.9%	e
				d	d					e

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	平成30	令和元	令和2
1501	地域の福祉ニーズの把握(2指標)	a	a	a
1502	地域におけるつながりの構築(3指標)	a	a	a
1503	関係者の連携・協働の推進(1指標)	a	a	b
1504	地域福祉を通じた安心・安全のまちづくり(2指標)	d	c	d
(4施策平均)		a	a	b

政策の客観指標総合評価 (政策の客観指標評価: 施策の客観指標評価=1:0.5)	平成30	令和元	令和2
	c	c	d

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		平成30	令和元	令和2 [※]
1	社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。	C	C	-
2	地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。	C	C	-
3	地域において福祉にかかわる民生委員などのボランティアのひとびとが活発に活動している。	C	C	-
4	地域のつながりが、福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。	C	C	-
政策の市民生活実感調査総合評価		C	C	-

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

平成30年度		令和元年度		令和2年度 [※]	
順位	%	順位	%	順位	%
19	81.0%	17	79.6%	-	-

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

＜総合評価＞

平成30	C	令和元	C	令和2	C	政策の目的がそこそこ達成されている
------	---	-----	---	-----	---	-------------------

＜原因分析＞

【客観指標総合評価】

☐ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。

☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

- ・福祉課題が多様化、困難化する中、民生委員・児童委員は、地域の見守り活動をはじめ、相談事業への対応や関係機関との会議への参加など、多岐にわたる活動を行っているものの、直接対応する相談件数をはじめとした支援件数が減少している。
- ・さらに、新型コロナウイルス感染症の影響等により、民生委員・児童委員が参加する会議や行事、地域におけるサロンの運営が中止・延期となったことや、老人福祉員が行う訪問活動についても減少したことから、c評価以下となったと考えられる。

【市民生活実感調査総合評価】

☐ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。

☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

- ・民生委員・児童委員や老人福祉員の活動と関わりが少ない市民にとっては制度が認知されにくいことから、「どちらとも言えない」とする回答が多くなっており、c評価以下で推移していると考えられる。

【総括】

- ・市民にとっては民生委員・児童委員や老人福祉員の活動と直接の関わりが少ない場合に、制度が十分に認知されていない状況があると考えられ、市民生活実感調査は低評価で推移している。
- ・また、客観指標については、民生委員・児童委員の支援件数の減少や、新型コロナウイルス感染症の影響等による民生委員・児童委員及び老人福祉員の活動の減少などからd評価となっており、総合的に判断して、当該政策の目標はそこそこ達成していると評価できる。

今後の方向性の検討

＜この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価+市民生活実感評価)＞

施策番号	施策名	総合評価		
		平成30	令和元	令和2
1501	地域の福祉ニーズの把握	B	B	B
1502	地域におけるつながりの構築	B	B	B
1503	関係者の連携・協働の推進	B	B	C
1504	地域福祉を通じた安心・安全のまちづくり	C	C	C

＜今後の方向性＞

①地域の福祉ニーズの把握

・引き続き、区地域福祉推進委員会の取組の充実・強化に取り組み、地域で主体的に取り組まれている活動等を幅広い関係者が共有することにより、地域の福祉ニーズの把握を図り、ニーズに合わせた福祉サービスの提供と新たな活動創出につなげる。また、これらの活動を広く市民に周知することで、地域福祉活動の普及・啓発を図る。

②地域におけるつながりの構築

・関係団体等のボランティア活動の更なる推進を図るとともに、それらの活動について、広く市民に周知することで、ボランティア活動に参加しやすい機運の醸成を図る。

③関係者の連携・協働の推進

・福祉を必要としている方のニーズに合わせた福祉サービスの提供ができるよう、地域福祉の推進に取り組んでいく。

④地域福祉を通じた安心・安全のまちづくり

・ボランティア活動や自主的な活動への支援、住民への周知を通じ、地域の福祉活動を通じた防犯・防災活動を活性化する。
・ウィズコロナ社会においても、民生委員・児童委員が感染拡大防止対策を徹底したうえで、地域活動を継続できるよう必要な支援を検討していく。

政策名	15	地域福祉					
指標名	民生委員活動数（件）						
担当部屋	健康長寿のまち・京都推進室		連絡先	7 4 6－7 7 1 3			
1 指標の説明							
本市民生委員の相談・支援及びその他の活動件数							
2 指標の意味							
自治・協働による地域の福祉力を示す指標							
3 算出方法・出典等							
算出方法：全数調査 出典：事業担当課調べ							
4 数値							
10年後（令和2年度）の目標値		平成23年度評価値	令和2年度目標値	根拠			
		225,478	—	—			
	前回数値 平成30年度	最新数値 令和元年度	推移	数値	単年度目標値 根拠	達成度	
数値	258,441	249,824	8,617件減少	265,575	過去5年間の最高値（平成26年度）	94.1%	
	全国順位	中長期目標			備考	（参考：過去5年の活動数） 平成26年度：265,575件 平成27年度：263,066件 平成28年度：261,083件 平成29年度：254,674件 平成30年度：258,441件	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値	-			-			
5 評価基準							
6 基準説明							
最新の数値が過去5年間の a：最高値以上 b：最高値未満～上中間値（最高値と平均値の間）以上 c：上中間値未満～平均値以上 d：平均値未満～下中間値（平均値と最低値の間）以上 e：下中間値未満							
当該指標については民間部門の寄与度が高いことから、過去5年間の数値を基に、最高値以上をa、平均値以上をcとし、最低値も含めた按分で基準を設定した。 最高値：265,575件（平成26年度） 平均値：260,568件 最低値：254,674件（平成29年度）							
7 評価結果							
平成30		令和元		令和2			
e		e		e			

指標名	老人福祉員訪問者数（人）						
担当部屋	健康長寿のまち・京都推進室		連絡先	7 4 6－7 7 1 3			
1 指標の説明							
老人福祉員が訪問している一人暮らし高齢者数							
2 指標の意味							
高齢者を支えるネットワークの構築がどれだけ進んでいるかを示す指標							
3 算出方法・出典等							
算出方法：全数調査 出典：事業担当課調べ							
4 数値							
10年後（令和2年度）の目標値		平成23年度評価値	令和2年度目標値	根拠			
		30,042	—	—			
	前回数値 平成30年度	最新数値 令和元年度	推移	数値	単年度目標値 根拠	達成度	
数値	34,606	32,997	1,609人減	34,780	過去5年間の最高値（平成29年度）	94.9%	
	全国順位	中長期目標			備考	（参考：過去5年の指標数値） 平成26年度：33,762人 平成27年度：34,752人 平成28年度：34,588人 平成29年度：34,780人 平成30年度：34,606人	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値	-			-			
5 評価基準							
6 基準説明							
最新の数値が過去5年間の a：最高値以上 b：最高値未満～上中間値（最高値と平均値の間）以上 c：上中間値未満～平均値以上 d：平均値未満～下中間値（平均値と最低値の間）以上 e：下中間値未満							
過去5年間の数値を基に、最高値以上をa、平均値以上をcとし、最低値も含めた按分で基準を設定した。 最高値：34,780人（平成29年度） 平均値：34,498人 最低値：33,762人（平成26年度）							
7 評価結果							
平成30		令和元		令和2			
a		b		e			